Express5800/VC300g

はじめにお読みください

NEC

Startup Guide

スタートアップガイド

856-128219-301-00　2009年7月　初版

箱を開けてから本装置の初期設定を完了するまでの手順を説明します。このスタートアップガイドに従って作業してください。

⚠ 安全に関するご注意

装置をセットアップする前に「ユーザーズガイド」の「使用上のご注意　-必ずお読みください-」をお読みの上、注意事項を守って正しくセットアップしてください。

⚠ 警　告

- ぬれた手で電源プラグの抜き差しをしないでください。感電するおそれがあります。
- 内蔵型オプションの取り付け・取り外しは電源コードをコンセントから抜いて行ってください。
- 雷が鳴り出したらケーブル類を含め装置に触らないでください。落雷による感電のおそれがあります。
- 「ユーザーズガイド」に記載されている内容を除き、分解・修理・改造を行わないでください。

⚠ 注　意

- 持ち運びの際は2人以上で装置の底面をしっかりと持って運んでください。
- 水、湿気、ほこり、油、煙の多い場所、また直射日光の当たる場所に設置しないでください。
- 装置に添付されている電源コード以外を使用しないでください。
- 電源コードは指定の電圧で、アース付きのコンセントに接続してください。
- 電源コードはタコ足配線にしないでください。

1 添付品を確認する

梱包箱を開け、添付品がそろっていることを確認してください(ご注文の構成により、下記以外の添付品が同梱されている場合があります)。

- 本体
- 電源コード
- フロントベゼル
- セキュリティキー(フロントベゼル内側に貼り付けられています)
- ソフトウェアパッケージ一式(バックアップDVD[*1]含む)
- 「EXPRESSBUILDER」DVD[*2]
- お客様登録申込書
- 使用上のご注意
- スタートアップガイド(本書)
- 保証書(本体梱包箱に貼り付けられています)

重要 添付のバックアップDVDは、再セットアップの時に必要となりますので大切に保管しておいてください。
バックアップDVDをPC等に挿入したまま、再起動するとインストール処理が実行されます。バックアップDVDの利用完了後には必ず取り出してください。

*1 バックアップDVDの中には「ユーザーズガイド」や各種オンラインドキュメントも格納されています。ユーザーズガイドやオンラインドキュメントはAdobe Readerで閲覧できるPDFファイルです。

*2 EXPRESSBUILDERパッケージの内容についてはEXPRESSBUILDER内の添付品一覧を参照してください。

2 ユーザーズガイドを読む

ユーザーズガイドはバックアップDVDの中に格納されています。ユーザーズガイドはAdobe Readerで閲覧できるPDFファイルです。

<バックアップDVD>:/nec/doc/manual.html

ユーザーズガイドでは、本装置を安全に取り扱うための注意事項や*Startup Guide*では記載されていないセットアップに関する詳細な説明、運用やアップグレードに関する説明が記載されています。また、「故障かな?」と思ったときのトラブル回避の手段やサービスに関する情報も記載されています。本装置を取り扱う前にぜひお読みください。

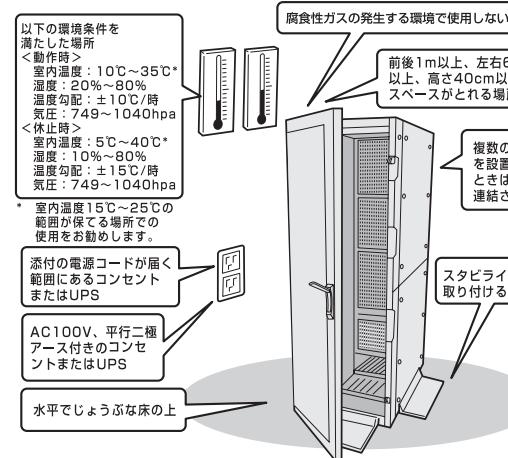
ヒント PDFファイルを閲覧するためには、Adobe Reader 日本語版が必要です。Adobe Readerはアドビ社のWebサイトから無償でダウンロードすることができます(http://www.adobe.co.jp)。

製本されたユーザーズガイドが必要な場合は、もよりの販売店、またはお買い求めの販売店にお問い合わせください。また、ユーザーズガイドは、NECのWebサイトからダウンロードすることができます。

「PCサーバ　サポート情報 (http://support.express.nec.co.jp/pcserver/)」

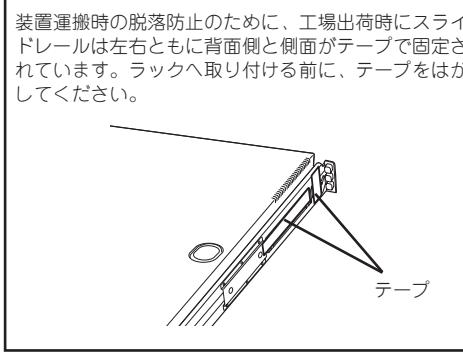
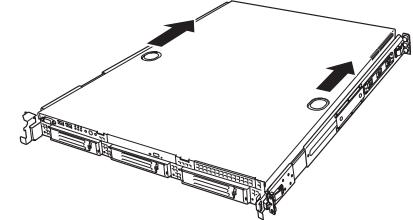
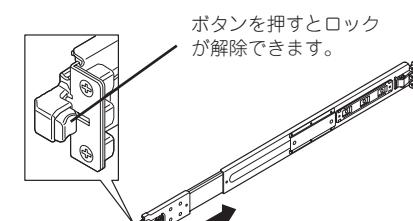
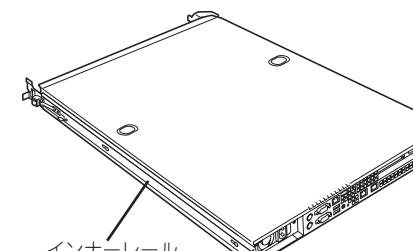
3 ラックを設置する

本体はEIA規格に適合した19型(インチ)ラックに設置して使用します。ラックに設置する場合は、次の条件を守ってラックを設置してください。

重要 ラックの設置は必ず複数名で行ってください。

4 本体を設置する

本体をラックに取り付けます。ユーザーズガイド(ハードウェア編)の2章を参照してください。

重要 ラックの設置や本体の取り付けは必ず複数名で行ってください。

装置運搬時の脱落防止のために、工場出荷時にスライドレールは左右ともに背面側と側面がテープで固定されています。ラックへ取り付ける前に、テープをはがしてください。

1. 本体左右に取り付けられているスライド式のレールを取り外す。

2. 本体前面にあるロック解除ボタンを押しながら、レールを持ってゆっくりと装置後方へスライドさせる。

レールアセンブリを取り外すと、本体にはネジで固定されたインナーレールのみが付いた状態となります。

取り外したレールアセンブリは、レールアセンブリを取り付ける際に使用します。どちら側のインナーレールから取り外したものかわかるように印を付けるなどして区別してください。複数の本装置を設置する際もどの装置のどちら側のインナーレールから取り外したものがわかるように区別してください。

レールで指を挟まないよう十分注意してください。

3. レールアセンブリの四角い突起を、19インチラックの角穴に入れて取り付ける。

この時に「カチッ」と音がして、ロックされたことを確認してください。

上図は右側(前面)を示していますが、右側(背面)、左側(前面/背面)も同様に取り付けてください。もう一方のレールを取り付ける時、すでに取り付けているレールアセンブリと同じ高さに取り付けることを確認してください。

前後に多少のガタツキがありますが、製品に支障はありません。

レールアセンブリが確実にロックされて脱落しないことを確認してください。

4. 左右のレールアセンブリのスライドレール(ベアリング部)を手前に引き出す。

5. 2人以上で本装置をしっかりと持ってラックへ取り付ける。

左右のレールアセンブリに本装置側面のインナーレールを確実に差し込んでからゆっくりと静かに押し込みます。

完全に装置を押し込むと装置前面のロックがかかり、装置を固定できます。

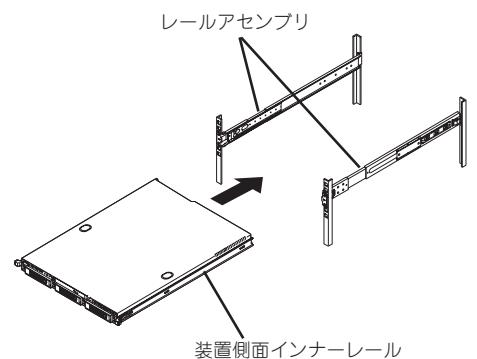
レールで指を挟まないよう十分注意してください。

差し込む時、インナーレールの両側をまっすぐ挿入してください。

設置時は、左右のツマミを持ってゆっくりと確認しながら取り付けてください。

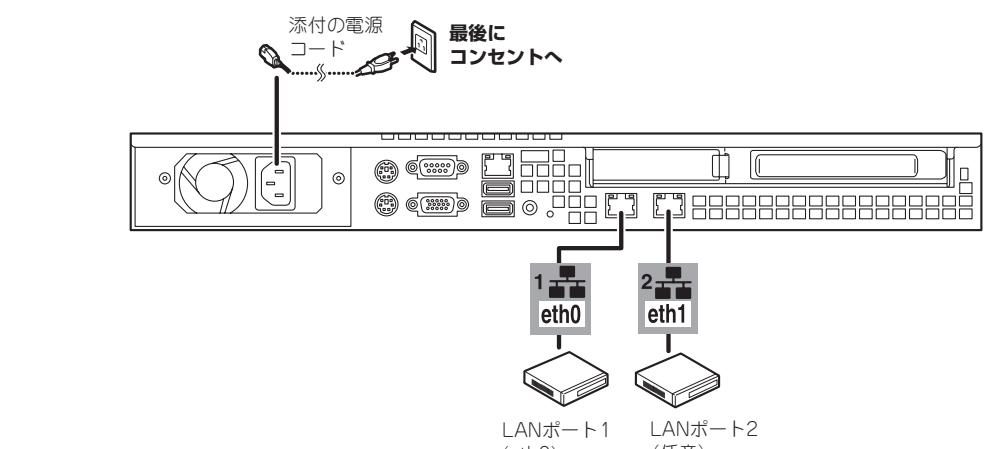
初めての取り付けでは各機構部品がなじんでいないため押し込むときに強い摩擦を感じることがありますが、製品に支障はありません。

6. 本装置を何度かラックから引き出したり、押し込んだりしてスライドの動作に問題がないことを確認する。

ラック内の他装置と隣接する位置に本装置を取り付ける際は、他装置と本装置の筐体が干渉していないことを確認してください。もし干渉している場合は、他装置と干渉しないよう調整してレールアセンブリを取り付け直してください。

以上で完了です。

5 ケーブルを接続する

本体背面にLANケーブルを接続した後、添付の電源コードを接続します。ユーザーズガイド(ハードウェア編)の2章を参照してください。

重要 LANポート1を必ず運用時のネットワークシステムに接続してください。初期導入時のセットアップでは、LANポート1(システムからはeth0ポートとして扱われます)を使用してセットアップを進めます。LANポート2(eth1)は初期導入のセットアップを完了後、Management Consoleの[システム]→[その他]→[ネットワーク]で設定できる拡張用ポートです。

引き続きシステムのセットアップをします。裏面をご覧ください。➡➡➡

6 VC300gをセットアップする

本装置をインターネット装置として運用するために最小限必要となる環境を構築します。WindowsクライアントPC(WindowsXP以降が動作する環境)を用意してください。詳しくは、ユーザーズガイド(ソフトウェア編)の2章「システムのセットアップ」を参照してください。

1 WindowsクライアントPCを準備する

本サーバが提供するWebインタフェースによる初期導入設定を行う為、本サーバと同じネットワークのIPアドレス(例えば、192.168.250.1/255.255.255.0)を設定した WindowsクライアントPC(以下、クライアントPCと記述します)を用意してください。

メモ：本サーバの初期状態のネットワーク設定は以下の通りです。

LANポート番号　：eth0
IPアドレス　：192.168.250.250
ネットワークマスク　：255.255.255.0
ホスト名　：intersec.domain.local

- ハブ環境を介して接続する

ハブに本サーバとクライアントPCをそれぞれストレートケーブルで接続します。

重要 **本サーバとクライアントPC以外の機器は接続しないでください。**

- 本サーバに直結する

本サーバとクライアントPCをクロスケーブルで接続します。

2 クライアントPCと本サーバを起動する

本サーバとクライアントPCをLAN ケーブルで接続した後、電源を入れてください。本サーバの起動後、背面の「LINK」ランプが点灯しているか確認してください。起動後、クライアントPCのコマンドプロンプトからping コマンドなどを使用して通信状態を確認してください。

[実行例]
C:¥> ping *192.168.250.250*(■)
(■)斜体部分は、本サーバのIPアドレスです。

本サーバと通信できない場合は、クライアントPCのネットワーク設定やLANケーブルの接続などを確認してください。

3 本サーバの初期導入設定ManagementConsoleに接続する

クライアントPCのInternet Explorerから以下のURLを指定して、本サーバの初期設定ManagementConsoleに接続してください。

http://192.168.250.250:50453/

正常に接続されると「Management Console」のログイン画面が表示されます。

ユーザ名、パスワード入力画面が表示されます。"ユーザ名(U)"、"パスワード(P)"に以下を入力して、[OK]をクリックしてください。管理PCから本装置にログインする際の管理者(admin)パスワードを設定する。

ユーザ名(U)　：root
パスワード(P)：システム管理者パスワード(*)

システム管理者のパスワードは、「管理者用パスワード」に記載されている「出荷時の管理者用パスワード」を入力してください。

6 初期導入設定を実行する

❶ 初期導入を開始する

ログインが成功すると以下の画面が表示されます。[開始]を押下し、初期導入を実施します。作業を中断したい場合は、[中止]を押下してください。

❷ システム管理者を設定する

ここでは、システム管理者に関する設定を行います。システム管理者のアカウントは "admin"(固定)です。システム管理者用のパスワードを「パスワード」「パスワード再入力」に入力して[次へ]をクリックしてください。システム管理者名のパスワードの指定は必須です。

メモ：システム管理者のアカウントは、セットアップ完了後、システム管理者ManagementConsole画面で変更できます。

❸ ネットワーク情報を設定する

お客様の運用ネットワークに合わせたネットワーク情報の設定を行います。

「ホスト名(FQDN)」、「IPアドレス」、「サブネットマスク」、「デフォルトゲートウェイ」、「プライマリネームサーバ」、「セカンダリネームサーバ」に設定内容を入力し、[次へ(N)] をクリックしてください。

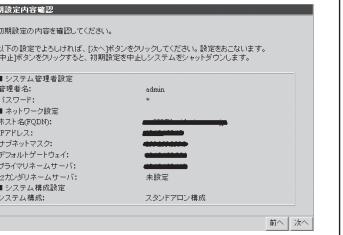
項目名	設定内容
*ホスト名	本装置のFQDNを設定します
* IPアドレス	本装置のIPアドレスを設定します
*サブネットマスク	ネットワークマスクを設定します
デフォルトゲートウェイ	デフォルトゲートウェイを設定します
プライマリネームサーバ	プライマリネームサーバを設定します
セカンダリネームサーバ	セカンダリネームサーバを設定します

※ 項目名の先頭に、"*"があるものは必須入力です

❹ システム構成を設定する

本サーバのシステム構成に関する設定を行います。特に設定変更する項目はございませんのでそのまま[次へ]をクリックしてください。

❺ 初期導入設定内容を確認する

前項までの初期設定内容を表示します。設定内容に間違いがないか確認してください。表示した設定内容でよければ[次へ]をクリックしてください。設定内容を変更する場合は[前へ]をクリックしてください。

❻ システムを再起動する

初期導入設定が完了すると、システムの再起動画面を表示します。続けてシステムの運用設定を行う場合は[システムを再起動する]をクリックしてください。システムを停止する場合は[システムを停止する]をクリックしてください。

7 アクティベーションコードを入手する

本製品でウイルス検索、フィルタリング、ブロックなどの機能やアップデート機能を利用するアクティベーションを実施するためには、「アクティベーションコード」を入手します。

アクティベーションコードはInterScan VirusWallのユーザー登録を行うと入手することができます。ユーザー登録は非常に大切な作業であり、InterScan VirusWallのユーザー登録を行うと、アクティベーションコードが提供されると共に、次のサービスを受けることができます。

- 1年間のウイルスパターンファイル等のアップデート
- 1年間のサポートサービス
- 製品の更新情報や新製品案内のご提供

ユーザー登録はインターネット経由での登録となります。
ユーザー登録の方法は、基本ライセンスに添付されております使用許諾契約書に同梱されております冊子「トレンドマイクロ製品をお使いいただくために」に記載されています。冊子を参照してユーザー登録およびアクティベーションコードの取得を行ってください。

ユーザー登録の際に必要となりますレジストレーションキーは、基本ライセンスに添付されております使用許諾契約書に記載されております。ユーザー登録に関しましては、ユーザーズガイド(ハードウェア編)の1章およびソフトウェア編も併せてご確認ください。

重要 **本製品でウイルス検索、フィルタリング、ブロックなどの機能や、アップデート機能を利用するためにはアクティベーションの実施が必要です。**

本製品のセットアップに先立ち、ユーザー登録およびアクティベーションコードの取得を実施してください。

ユーザー登録時に発行されるアクティベーションコードは非常に重要な情報です。確実に保管してください。

ユーザー登録する際には、トレンドマイクロ社へのユーザー登録だけでなく、必ずWeb登録によってPPサポートサービスの登録およびサポート申し込みを行う必要があります。

8 InterScan VirusWallのアクティベーションをする

本製品でウイルス検索、フィルタリング、ブロックなどの機能や、アップデート機能を利用するためにアクティベーションを実施してください。

1 InterScanコンソールを開く。

InterScanコンソールを開くには次の2つの方法があります。

- Management Consoleからサービスのアイコンを選択し、[ウイルスチェック]をクリックする。
- Webブラウザを起動し、InterScanマシンのIPアドレス：ポート番号(HTTP=9240、HTTPS=9241)のURLを入力する。

IPアドレスの部分は、 InterScanマシンのドメイン名、 IPアドレスのいずれでもかまいません。

【HTTPの例】
http://ドメイン名:9240
http://isvw.widget.com:9240
http://123.12.123.123:9240

【HTTPSの例】
https://ドメイン名:9241
https://isvw.widget.com:9241
https://123.12.123.123:9241

2 InterScanコンソールにログインするためのパスワードを入力する。

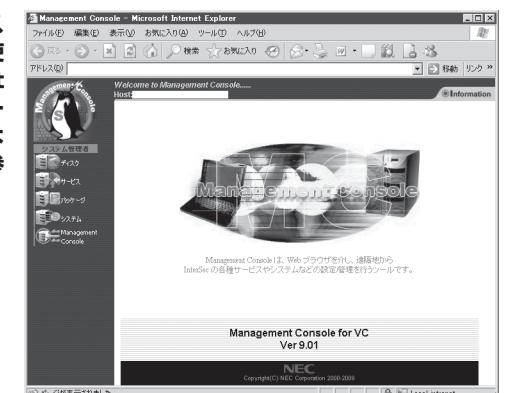
InterScanコンソールにはパスワードが設定されています。出荷時のパスワードは「admin」です。

3 [管理]→[製品ライセンス情報]を選択しアクティベーションコードを入力して[アクティベート]を実行する。

4 ウイルスパターンファイルのダウンロード設定などInterScanコンソールでの詳細設定をする。

詳しくはユーザーズガイドのソフトウェア編をご覧ください。

9 Management Consoleを使用したシステムの設定をする

システムのサービスに関する設定やシステムの基本設定は「Management Consoleを使用して変更することができます。Management Consoleへの接続方法や設定項目についてはユーザーズガイドのソフトウェア編、またはManagement Consoleのオンラインヘルプを参照してください。

10 ESMPRO/ServerAgentの設定をする

本体の状態を監視するソフトウェア「ESMPRO/ServerAgent」がインストール済みです。ファンやマザーボード、ハードディスクドライブ、本体の温度などを監視するこのソフトウェアの設定(しきい値やイベントの通報先)をします。

詳しくは、バックアップDVDにあるESMPRO/ServerAgentユーザーズガイドを参照してください。

<バックアップDVD>:/nec/doc/300/esmpro.sa/esmsa_users.pdf

接続に使用するクライアントマシンによっては罫線が文字化けすることがありますが、それぞれの機能は問題なく動作します。

11 管理コンピュータのセットアップをする

本装置をネットワーク上から管理・保守するソフトウェアを管理コンピュータにインストールします。ソフトウェアは、本体に添付の「EXPRESSBUILDER」 DVDに含まれています。管理コンピュータの光ディスクドライブに「EXPRESSBUILDER」 DVDをセットすると表示される「オートランで起動するメニュー」からそれぞれインストールすることができます。詳しくはユーザーズガイド(ハードウェア編)の3章を参照してください。

以上で完了です。